

登録コード	L1142600	開講年度	2026				
担当教員	三谷 尚澄			副担当			
授業科目	哲学・思想論発展演習						
英文授業名	Philosophy Advanced Seminar						
授業タイトル	哲学発展演習						
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	金曜・2時限
講義室	人文501演習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加わらぬ対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			・代表的な哲学の問題と真剣に向き合うことを通じて、常識的思考が陥りがちな硬直状態を抜け出し、虚心にことの真相を突きとめようとする視点・態度を獲得する。 ・代表的な哲学の問題を批判的に検討することを通じて、他者の受け売りではない自分独自の思考を練り上げることができるようになる。 ・哲学的・思想的に重要な問題をテーマとした資料の検討を通じて、代表的な哲学的問題に関する幅広い知識を修得する。			
	【2022年度以前加わらぬ対象】過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力			・代表的な哲学の問題と真剣に向き合うことを通じて、常識的思考が陥りがちな硬直状態を抜け出し、虚心にことの真相を突きとめようとする視点・態度を獲得する。 ・代表的な哲学の問題を批判的に検討することを通じて、他者の受け売りではない自分独自の思考を練り上げることができるようになる。 ・哲学的・思想的に重要な問題をテーマとした資料の検討を通じて、代表的な哲学的問題に関する幅広い知識を修得する。			
	【2022年度以前加わらぬ対象】他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシー			・概念史的背景、事柄に即した論理的・批判的思考等を通じて、さまざまな哲学的問題に対してより奥行き深い思考でアプローチし、総合的に吟味・検討する能力を習得する。 ・レポートの作成を通じて、読み解いた内容を自分なりに噛み砕き、他人に理解できる言葉で明瞭に整理して伝達する能力を習得する。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加わらぬ対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			・代表的な哲学の問題と真剣に向き合うことを通じて、常識的思考が陥りがちな硬直状態を抜け出し、虚心にことの真相を突きとめようとする視点・態度を獲得する。 ・代表的な哲学の問題を批判的に検討することを通じて、他者の受け売りではない自分独自の思考を練り上げることができるようになる。 ・哲学的・思想的に重要な問題をテーマとした資料の検討を通じて、代表的な哲学的問題に関する幅広い知識を修得する。			
	【2023年度以降加わらぬ対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】			・概念史的背景、事柄に即した論理的・批判的思考等を通じて、さまざまな哲学的問題に対してより奥行き深い思考でアプローチし、総合的に吟味・検討する能力を習得する。 ・レポートの作成を通じて、読み解いた内容を自分なりに噛み砕き、他人に理解できる言葉で明瞭に整理して伝達する能力を習得する。			
授業で学べる「テーマ」	その他						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	哲学を学ぶうえで、読み、考え、議論し、書く能力の訓練と修得が必須であることは言うまでもない。しかし、同時に、こういった哲学の技法を使いこなせるようになるためには、さまざまな問題をめぐる代表的な見解を理解し、背景の知識として蓄え、自分自身のボキャブラリーの一部として使いこなせるようになっておく、という「まねび／真似び」のプロセスもまた同等に重要である。 このような考え方に基づいて、この授業では、（１）歴史的に重要な哲学的問題を扱った、日本語もしくは英語で書かれた発展的なレベルの文献を取り上げ、（２）それらの文献の自主的な読解を通じて、発展的な学びの土台となる堅実な知的基盤を構築すると同時に、（３）担当者の報告をもとに共同で討議することで、明晰なプレゼンテーションと建設的な対話の能力を涵養することを目指す。 なお、本年度は、「近代」と呼ばれる時代に特有の困難を見据えつつ、「他ならぬこのわたし（ほんもののわたし）」として生きることにつながるさまざまな哲学的問題をテーマとしたチャールズ・テイラーの文献を読み進めることで、「現代的課題と正面から対峙しつつ哲学する」とはどのようなことであるかを実際に体験し、さまざまな現代的課題に関する哲学的思索を自分自身の力で始められるようになることを最終目標とする。						
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：三つの不安 第3回：かみ合わない論争 第4回：ほんものという理想の源泉 第5回：第一部のまとめ 第6回：逃れられない地平 第7回：承認の二ード 第8回：主観主義へのすべり坂						

授業計画	第9回：闘争は続く 第10回：第二部のまとめ 第11回：もっと微妙な言語 第12回：鉄の檻？ 第13回：断片化に抗して 第14回：第三部のまとめ 第15回：全体の振り返りと展望 / 授業アンケート
成績評価の方法	扱われた哲学的話題が適切に理解できているかについて、担当回での発表の内容（5割）と学期末のレポート（5割）をあわせて総合的に評価する。
成績評価の基準	成績評価の対象となる各項目について、(i) 熱心な態度と明確な貢献が際立っており、建設的かつ説得的な内容を備えた報告が提出されていれば「卓越している」。(ii) 熱心な態度と十分な貢献が認められ、適切かつ整合的な内容を備えた報告が提出されていれば「かなり上にある」。(iii) 真摯な態度とある程度の貢献が認められ、十分に妥当な内容を備えた報告が提出されていれば「やや上にある」。(iv) 妥当な態度とある程度の貢献が認められ、瑕疵のないまとめと論理性を備えた報告が提出されていれば「水準にある」。
事前事後学習の内容	発表担当でない回についても、資料の該当箇所を熟読してくる。また、授業終了後には、授業において議論された内容について熟慮し、次回以降の議論に生かすことができるよう整理しておくこと。
履修上の注意	各受講者には、自分の発表担当でない回にも出席し、積極的に発言することが必須の責任として要求される。
質問、相談への対応	オフィスアワー 火曜12時15分～13時15分 を通じて対応する。
教科書	チャールズ・テイラー（田中智彦訳）『ほんもの という倫理 近代とその不安』ちくま学芸文庫、2023年
参考書	Charles Taylor, "The Ethics of Authenticity", Harvard U. P., 1991.